

床の間の作成方法

文書管理番号：1215-01

Q. 質問

和室に床の間を作成し、パースで表現したい。

A. 回答

プラン図で床の間を作成する場合、床の間と和室の間の壁を下り壁と框線にし、真壁設定をして表現します。全壁で区画を作成し部屋名を設定すると、「部材自動認識配置」により、床の間と和室の間の全壁は「下り壁+框線」に、床の間と和室の壁は「真壁」に自動変更されます。

また、内観部品や柱の配置により、3D パースでの雰囲気もかわります。

ここでは、下のような床の間のある真壁和室の作成方法を説明します。



操作手順

● 部屋設定

(プラン図)で操作①の図のように、 (壁)の (全壁)を配置後の操作から説明します。

- * (全壁)で入力し部屋設定をすると、部材自動認識配置により壁が自動的に変更され、畳が配置されます。

① (部屋)の (部屋) をクリックし、和室にする区画をクリック

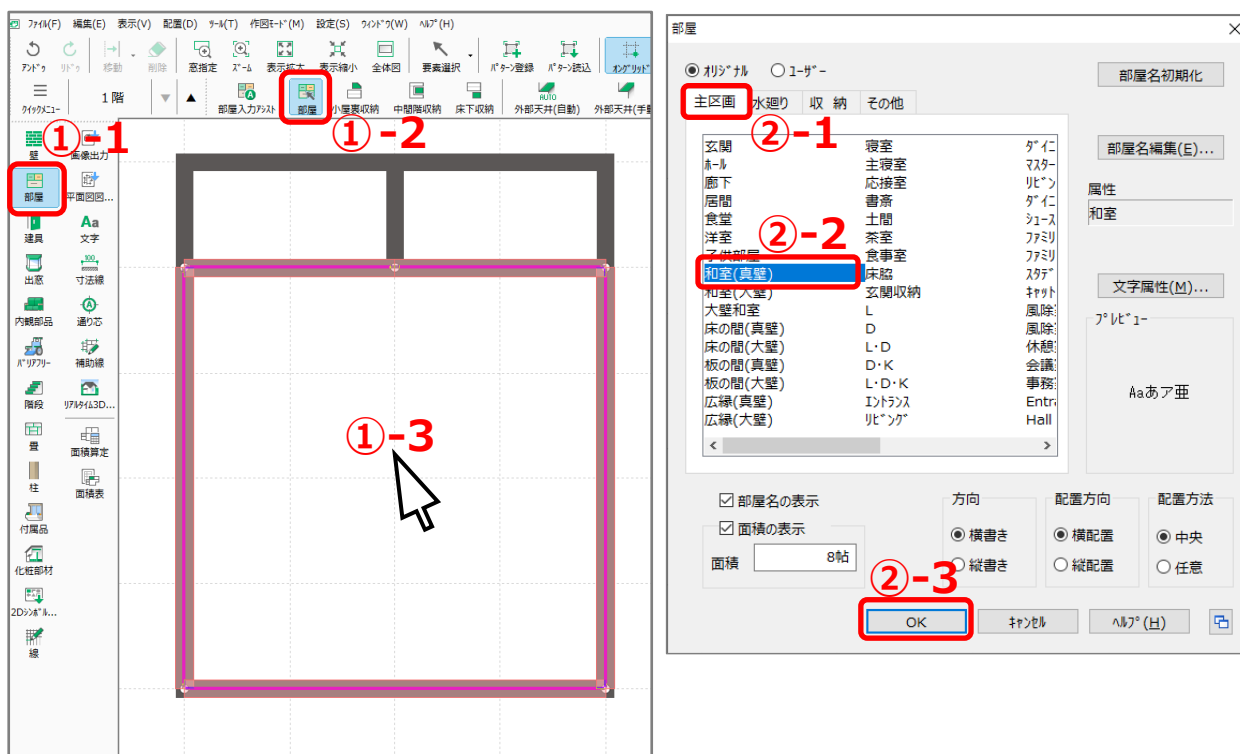
- * 部屋の設定画面が表示されます。
- * 部屋名の設定は (部屋入力アシスト)を使用してもかまいません。

【参考】 部屋の設定方法の変更

部屋の設定方法は (部屋)と (部屋入力アシスト)の2種類があり、切替が可能です。

部屋の設定方法を変更するには、こちらをご覧ください。

[\[1038\] 部屋の設定方法を変更する手順](#)

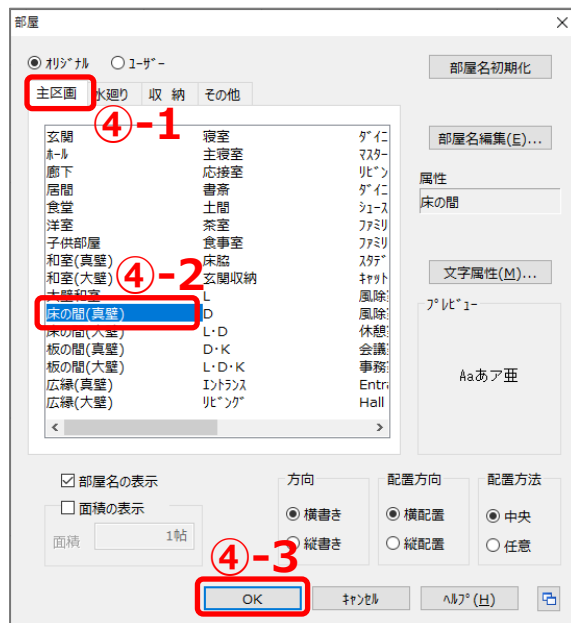


② 「主区画」タブの「和室(真壁)」を選択し、「OK」をクリック

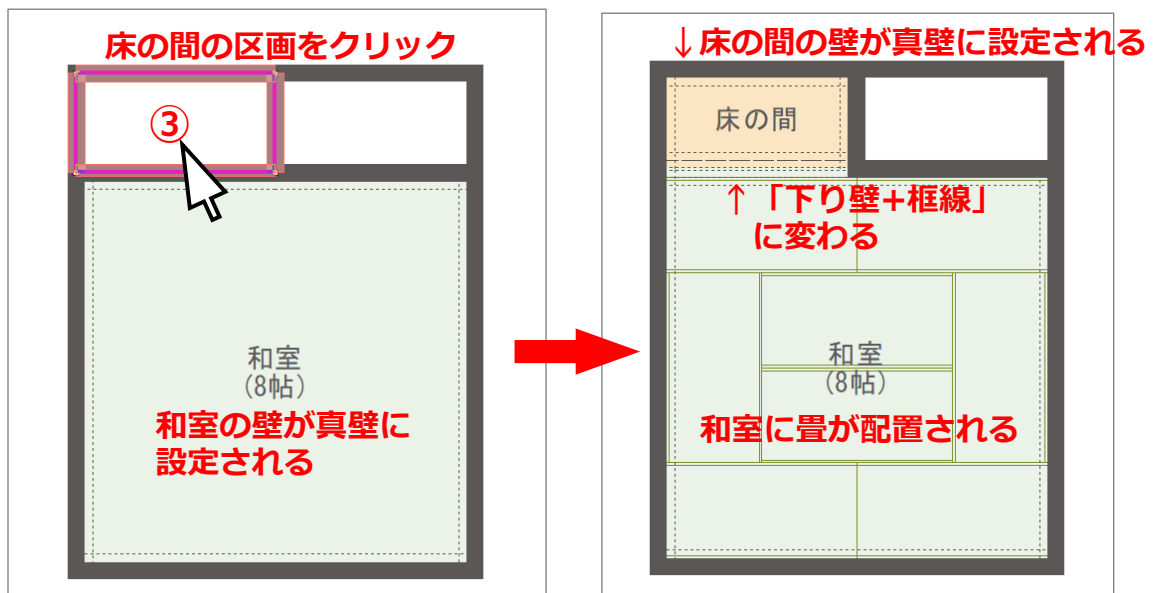
- * 和室(真壁)が設定され、壁の内側に点線が表示(真壁に設定)されます。

- ③ 「床の間」にする区画をクリック
 * 部屋の設定画面が表示されます。

- ④ 「主区画」タブの「床の間(真壁)」を選択し、「OK」をクリック



- * 床の間(真壁)が設定され、壁の内側に点線が表示（真壁に設定）されます。さらに、床の間と和室の間の全壁が「下り壁+框線」に変わり、和室(8畳)に畳が自動配置されます。




- ⑤ 「押入」にする区画をクリック
 * 部屋の設定画面が表示されます。

- ⑥ 「収納」タブの「押入」を選択し、「OK」をクリック
 * 押入が設定されます。

【参考】部材自動認識配置

以下の項目は、部屋名の設定により、壁の種類を自動で変更したり、畳が自動で配置されます。

 (プラン図)の「設定」⇒「自動生成部材」で、部材自動認識配置の有無を設定できます。初期設定は、全項目にチェックが付いた状態です。和室に関する項目は、赤枠で囲まれた以下の3つです。

自動生成部材 ×

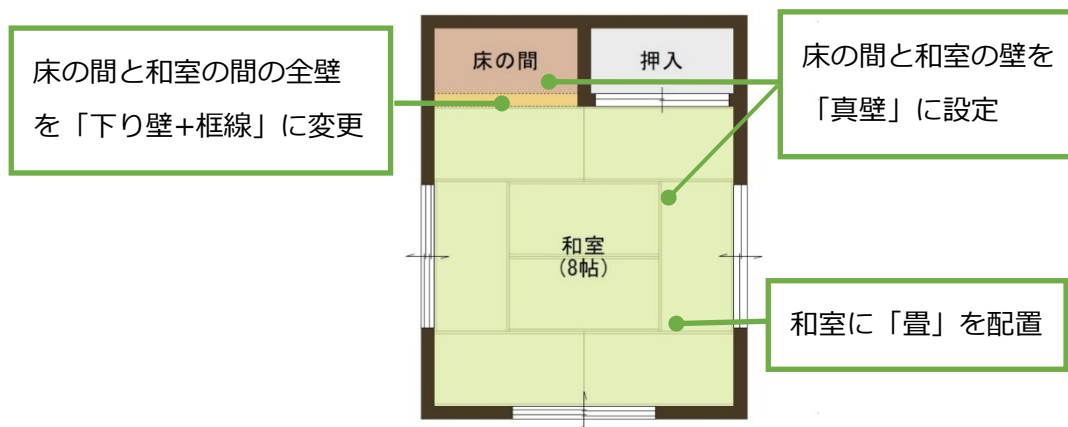
上がり框 玄関とホールの間、勝手口とキッチンの上に上がり框を自動生成します。


下がり壁+框 和室と床の間(間)の下がり壁+框を自動生成します。

真壁 和室、床の間、板の間を真壁に自動変更します。(木造工法)

畳 和室に隣接する床の間の向きに応じて畳の方向が確定し、自動配置されます。

※部屋属性を基準に自動生成します。



- 下がり壁+框:  (全壁)で区画を入力し、和室と床の間の部屋名を配置した際に、床の間と和室の間の全壁を自動的に「下り壁+框線」に変更します。
- 真壁: 真壁属性の部屋名「和室(真壁)」「床の間(真壁)」「板の間(真壁)」「広縁(真壁)」を配置した際に、自動で真壁に設定します。
- 畳: 和室の形状が矩形の場合、和室と床の間の部屋名を配置した際に、床の間位置を認識して畳の向きを決め、和室の広さに合わせた畳(4.5畳から12.5畳まで)を自動配置します。

⑦ (要素選択)で下り壁を選択し、右クリックメニューの「高さ設定」をクリック



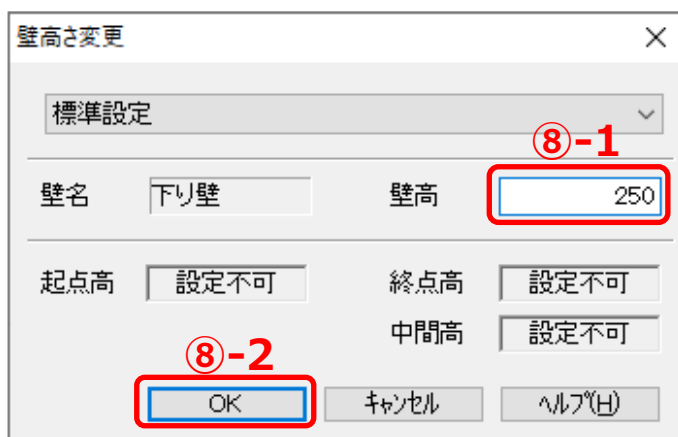
* 枠が選択された場合は、キーボードの[Tab]キーまたは右クリックメニューの「次候補」で、選択する部材を下り壁に切り替えてください。

詳しい操作手順については、こちらをご覧ください。

[\[1106\] 重なった位置にある要素の選択方法](#)

* 壁高さ変更の画面が表示されます。

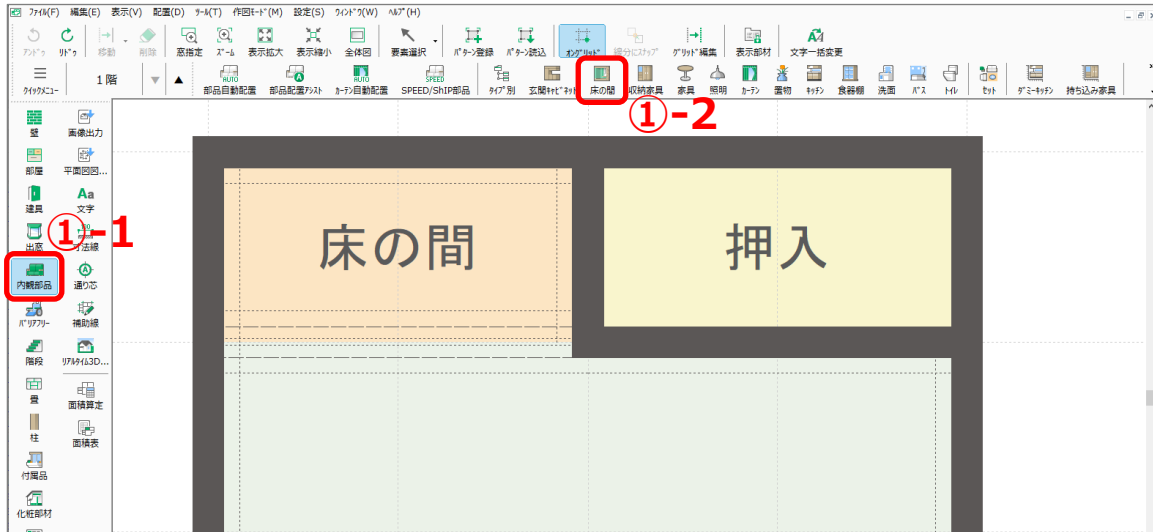
⑧ 壁高を「250」mmに設定し、「OK」をクリック



● 床の間の床模様

床の間の床模様は、 (線)や (内観部品)を配置して表現します。
ここでは、内観部品を配置して表現する方法を説明します。

① (内観部品)の (床の間)をクリック

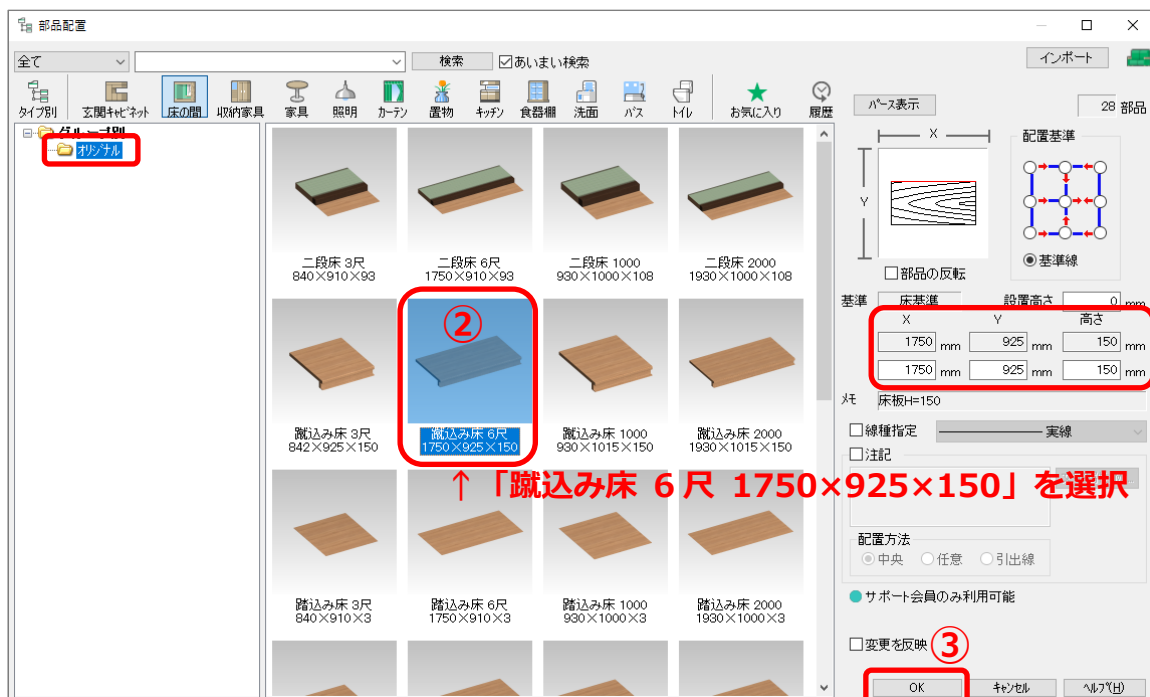


* 部品配置の画面が表示されます。

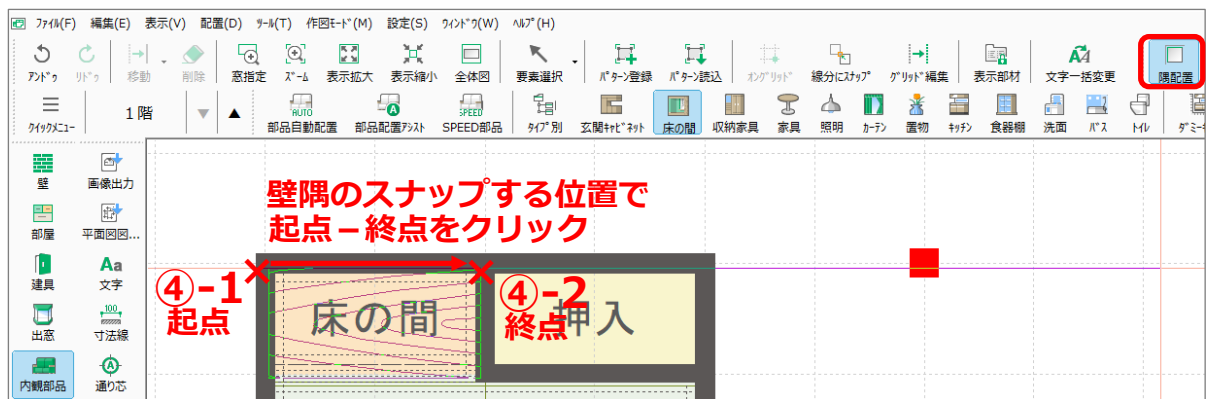
② 「蹴込み床 6尺 1750×925×150」を選択

③ サイズを設定し、「OK」をクリック

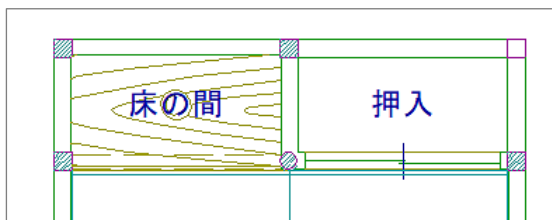
* ここでは初期のサイズで配置します。



④  (隅配置)になっていることを確認し、配置したい位置に起点—終点で配置





- * 床の間の部品が配置されます。
- * 床の間の模様は、図面出力した結果にも反映します。





〈平面図〉

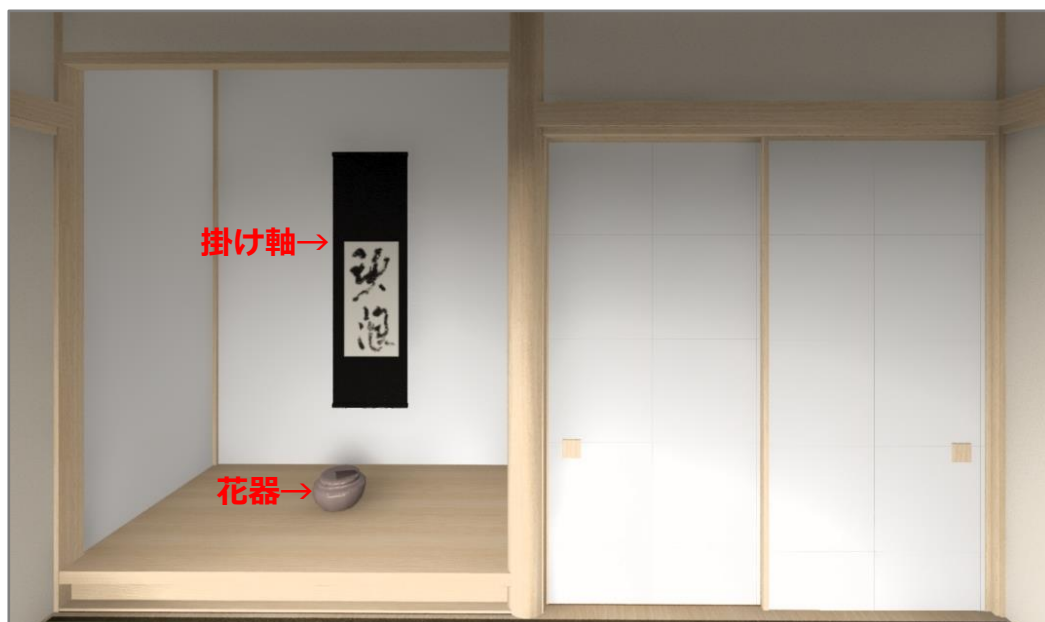
【参考】床の間に配置した部品

 (内観部品) ⇒  (置物) ⇒ 「Web 部品 3」 ⇒ 「花器」を配置しています。

- * 花器は、設置高を 150mm にして配置しています。

 (内観部品) ⇒  (置物) ⇒ 「Web 部品 10」 ⇒ 「掛け軸」を配置しています。

- * WEB 部品は、サポート会員の方のみご利用いただけます。



● 床柱

床柱を配置する方法を説明します。

管柱の配置方法については、A's（エース）のマニュアルやヘルプをご覧ください。

- ① (柱)の (床柱(丸))をクリック
 - * 「床柱(角)」が表示されている場合は、プルダウンメニューから「床柱(丸)」を選択してください。
 - * 床柱の設定画面が表示されます。
- ② サイズを設定し「OK」をクリック
 - * ここでは「φ150 床柱(丸)」を選択し、直径「150」mmで配置します。
 - * 作図モードは (1点配置)になっています。



- ③ 配置したい位置でクリック

* 床柱が配置されます。

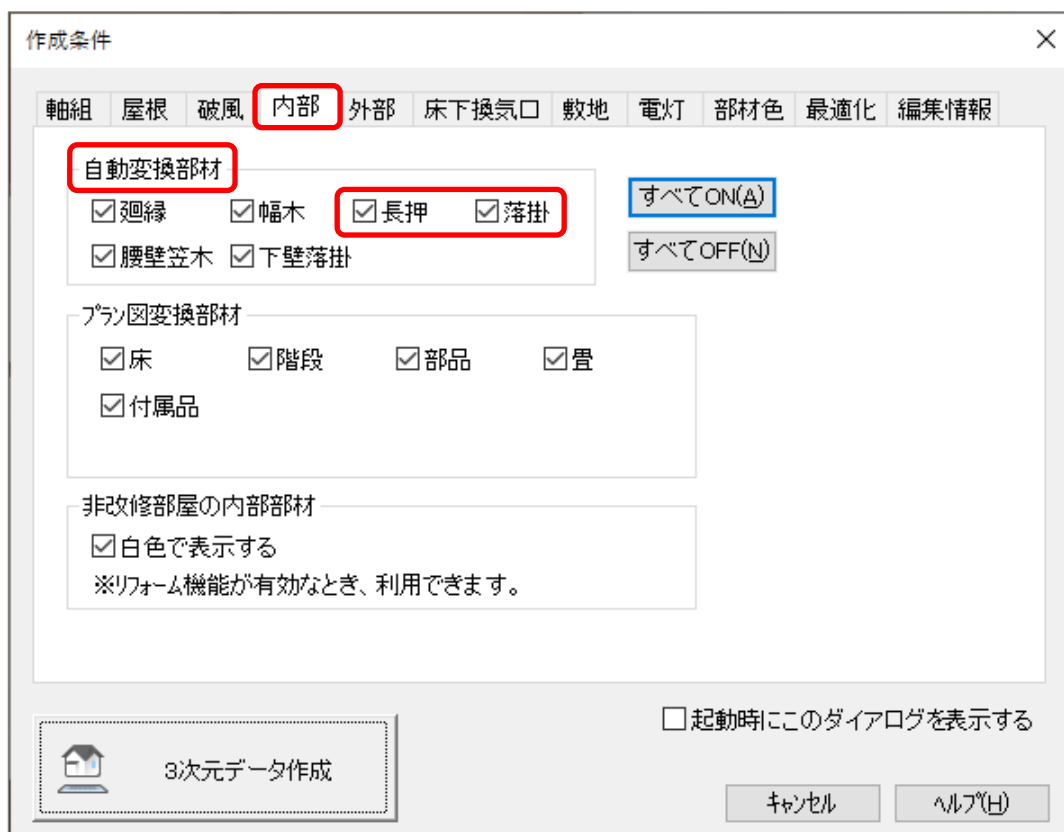
参考：3D パースで自動生成される長押・落掛




(3D パース)の (作成条件)⇒「内部」タブの自動変換部材では、3D パースで自動生成される部材の変換の有無を設定できます。

チェックが付いた部材が自動で生成され、パースに表示されます。初期設定は全項目にチェックが付いた状態です。和室の長押や落掛が自動生成される条件は、以下のとおりです。

- 落掛：和室と床の間の下り壁に生成されます。
- 長押：和室（真壁）に配置された建具の中で、上端高が一番高い建具を基準として自動生成されます。建具の上端高が階基準から 1500～2200mmの範囲にある場合に、長押が自動生成されます。



参考：下り壁+枠線

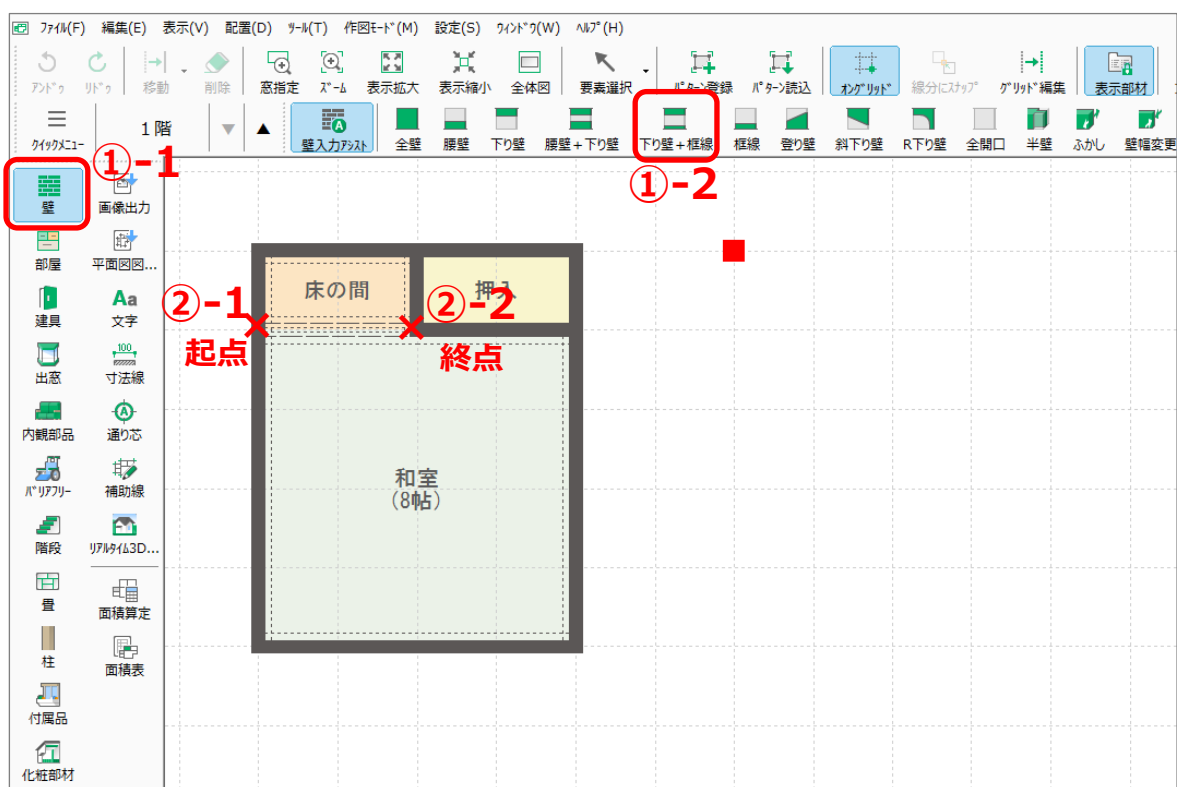
 (プラン図)の「設定」⇒「自動生成部材」で、「下り壁+枠線」のチェックを外している場合や、チェックが入っていても、間取りによっては壁が自動変換されないことがあります。その場合は、壁の種類を手動で変更します。ここで説明する入力方法は一例です。

- ①  (壁)の  (下り壁+枠線)をクリック

* 「下り壁」と「枠線」を同じ位置に入力することができます。

- ② 図のように、床の間と和室の間に入力

* 「下り壁+枠線」が配置されます。



* 入力済みの壁をなぞるように上書きすることで、壁の種類を変更できます。